平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人岡山大学

１ 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」の理念を高く掲げ、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」という目的を定めている。第３期中期目標期間においては、世界のリーディング大学に伍して、徹底したガバナンス改革の下、国際社会や地域と連携した教育、異分野融合科学や医療等を中心とした研究、並びに社会貢献の全ての分野で、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、異分野基礎科学研究所の設置によって研究成果を創出するとともに、大学への貢献を反映した部局評価を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　全学教育・学生支援機構教育開発センター内に「実践教育部門」を設け、学生の課題解決力やコミュニケーション力を養うとともに、社会に対する責任や気概をもつ人財を育成することを目指す「実践型社会連携教育プログラム」の全学展開・拡充を図る体制を整備している。提供科目数については、教養教育科目12科目（平成27年度・試行実施）から、平成28年度は教養教育科目64科目、専門教育科目61科目に増加している。（ユニット「アクティブ・ラーニングの導入や全学授業科目の体系的構造化など大学教育の質的転換を通した『学びの強化』の実現」に関する取組）

○　ブリティッシュコロンビア大学（UBC）（カナダ）と連携し、同大学が実施する「Co-opプログラム（５年間の修学期間の間に５回の長期インターンシップを行うプログラム）」の学生２名を受け入れ、大学独自の日本人学生向け企業体験型科目である「国際インターンシップ科目」を実施し、UBC学生及び日本人学生を林業関係企業（７社）へ派遣している（合計14名が参加）。（ユニット「世界で活躍できる『実践人』の育成」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第２期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 大学への貢献を反映した部局評価の実施

各部局が定めた組織目標の達成状況を評価する「部局組織目標評価」について、組織目標評価報告書に「大学全体への貢献」欄を新設し、報告書に記載された目標の達成状況や大学全体への貢献度、各種指標等の資料に基づき４段階評定及びコメントし、学長・理事等による協議を踏まえて部局の評価結果を決定している。評価結果については、部局運営における改善及び向上とともに、各部局へ配分される資源配分に活用されている。

○ 事務職員の国際的資質向上に向けた取組

大学のグローバル化に対応し、事務職員の異文化・異社会への理解を深めるため、異文化遭遇シミュレーション等の体験型学習やブレインストーミング等を通じて、異文化の壁を越える実践コミュニケーションを体感する「実践型グローバルビジョン研修」等のPBL型研修を実施しており、平成28年度は515名が参加している。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載９事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 年度計画を著しく上回る目標の達成

年度計画【80-1】に関して、国内外の技術移転機関等との連携により知財情報配信並びに技術移転活動を強化した結果、平成28年度の入金総額7,298万円を達成しており、年度計画に掲げる目標である「年間技術移転収入1,810万円」を著しく上回っていると認められる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開等や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載２事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 大学ブランド戦略の推進

全国紙・地元紙への広告掲載や岡山駅での広告掲載、大学のロゴマークを目立たせるような広報物・名刺デザインの統一等を実施しており、岡山駅新幹線階段下に掲示したインパクトのある岡山大学のポスターを新聞広告に利用したり、学内各所の掲示板に掲示したりすることで、相乗効果を図るなど大学のブランド戦略を推進した結果、株式会社日経BPコンサルティングの「大学ブランド・イメージ調査2016～17（中国・四国編）」において初めて第１位を獲得している。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 安全衛生に関する講義の開講による学生への安全衛生意識の向上

学生が卒業後の社会人として活動する上で安全衛生意識の基礎を身に付けることが重要なことから、入学初年度から卒業するまでの期間に継続的かつ専門分野に応じた段階的な安全衛生教育を体系化するため、教職員への安全衛生講習に加えて、平成28年度から学部生・大学院生に対して安全衛生に関する講義を必修科目を含めて５科目実施し学生の意識向上を図っており、延べ2,420名が受講している。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 60分授業・４学期制の開始及び継続的な改善の取組

平成28年度から学士課程において、全学一斉（夜間主を除く）に60分授業・４学期制を開始するとともに、授業評価アンケートや学生意見箱等を通じて寄せられた意見や質問・要望等、各学部との意見交換を通じて判明した課題等に対してきめ細やかな対応を行っている。併せて、社会系・自然系・生命系の３つの系ごとに、履修目的に合致した教養教育科目の履修モデル案を作成し、計画的な履修設定を可能としている。

○ インターンシップを実質化する仕組みの構築

インターンシップ科目の拡充を踏まえ、学生の成績評価や指導、学生の日々の活動の振り返り、学生と企業担当者間のコミュニケーションのツールとなるワークブックを開発し活用している。ワークブックの活用により、学生がPDCAサイクルを自分で回すことができるようになるだけでなく、教員による学生の体験や気付きの把握や、各学生に対する受入れ先企業担当者の評価の把握等、学生の自己評価、企業担当者の評価、教員による評価に同時に活用されている。

○ 異分野基礎科学研究所の設置による研究成果の創出

岡山大学における「研究の強み」としての基礎物理学、生物科学研究を強化・発展し、俯瞰的な立場から研究領域を貫く新しい研究分野の確立を目的として「異分野基礎科学研究所」を設置し、外国人研究グループの設置や海外研究者の招へい、研究所教員並びに指導する大学院生のアメリカやヨーロッパの大学・研究機関への積極的な派遣（平成28年度８名）を実施している。その結果、高被引用論文数（トップ１％論文）の49から69への増加（平成22年度から平成28年度の７年間の総数）、高被引用回数を有する研究者の増加（平成28年度１名増）、高いレベルの国際雑誌への研究成果の発表等を実現している。

○ 人的・物的資源の重点化によるイネのリン輸送機能の解明

資源植物科学研究所では、研究所の強み・特色の一つである植物ストレス学グループにおいて、人的・物的資源の重点化を図っており、その成果として、リン酸肥料施与量の削減や環境へのリン排出低減及びカルシウム等の栄養素消化吸収改善につながるイネの新規リン酸輸送体SPDTの機能を解明している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 国際医療人材の養成に向けた取組の実施

医療分野における国際交流・国際貢献活動の進展と発展途上国における医療水準の向上に寄与するため、中国、ミャンマー、タイ、エジプトから医師・歯科医師を受け入れ、平成29年３月末までに18名の臨床修練外国医師等に対し教育･研修を実施しているほか、臨床修練指導医等適任者数について、中期目標における平成28年度目標指標である116名を上回る130名となるなど、国際医療人材の養成を推進している。

○ 国際水準の臨床研究推進体制の整備

高度な臨床研究や医師主導治験を推進するため、医療法上の「臨床研究中核病院」に対する申請を行い、平成29年３月に中国・四国地方で初めて認定を受けるなど、国際水準の臨床研究を推進するための体制を整備している。

（診療面）

○ 臓器移植医療の高質化と国際貢献の促進

臓器移植医療センターにおいて、医療スタッフの見識を高めるため、定期的なカンファレンスを通じて困難症例の問題点に対する議論や最新知識、リスクマネージメントについて情報共有を図るとともに、発展途上国の医療水準の向上に貢献するため、ベトナムからの要請を受けて、臓器移植医療センター肺移植チームを派遣し、同国で初めて生体肺移植を成功させている。

（運営面）

○ 医療材料費削減に向けた取組の実施

医療材料の使用実績等について「医療材料選定会議」において分析・検討を行い、価格交渉等を行ったほか、中国・四国９大学病院による共同交渉において、特定メーカーの医療材料について複数の病院で各代理店に対する価格交渉を行ったことにより、医療材料費を約6,234万円削減している。